

まちづくり人材育成講座(第4回)

課 題

平成 19 年 9 月 8 日
浜松まちづくりセンター

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？必要無いと考える場合はその理由を、必要であると考えた場合はその理由と共に、誰が、誰のために取り組むべき問題であるかについて、あなたの考えを述べてください。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

中心市街地の活性化の必要性を考えると、中心市街地の役割、それが衰退した場合の影響、また人口や産業構造の短期的、中長期的な変化、社会制度の変革の方向性、さらには日本人の生涯設計も含め総合的に論じる必要があると思います。

一般的に中心市街地は、多くの人暮らし、古くから経済活動が盛んで、祭りや文化を育み、交通の要となってきた場所で、浜松市もこれに当てはまります。

市の顔と言える中心市街地に活気が無ければ、商店の売り上げが落ちるばかりでなく、その印象を悪くし、会社も本社や支社を移転して、営業所に替えるかもしれません。そのようなことが連鎖的に起きることも懸念され、就業の場や、税収など様々な影響が出てくることとなります。

さらに交流人口が減り、その影響で、電車やバスの本数も減り、コンサートや講演会などが減ってしまうでしょう。また、収入の減は祭りや文化面にかかる余裕を無くし、文化面での情報発信が少なくなり、伝統文化も伝承が難しくなると思われます。

これらの代償は移動のための出費、あるいは転勤や若者の流出、浜松らしい文化の喪失といった形で市民全体に及んでしまいます。

また、将来的には年齢構造の変化や環境問題といったことも大きな課題となります。

日本全体では2050年には65歳以上の人口が4割を超えると予測されています。今、郊外に家を建てた人が70歳を超えるわけですから、そのときどんな生活をするようになるのでしょうか。先日、お会いした旧佐久間町に住む80歳を越えた方が、年齢的にもう運転したくないが、車を運転しないと買い物にもどこにもいけないから、運転しているんだと言っていました。

市が拡大、成長を続けていけば別ですが、将来的には比較的近郊であっても、郊外の大型SCも撤退した後、小売店は無く、病院も遠いなど日常生活に不便を来す場所も出てくるでしょう。行政も税収減と高齢者向けサービスの増加に対応し、公共施設についても新しい施設を郊外に作っていくのではなく、中心市街地にある施設をどう効率的に運営ができるか求められることでしょう。

環境面ではCO₂の削減が求められており、効率的なエネルギー利用、環境に負荷をかけない生活が益々求められています。このままでは温暖化による気候変動は避けられず、ガソリンを使った車社会から早いうちに脱却すべきです。

現在の市の中心街は、そこに住むには土地価格、住環境、渋滞、日常の買い物などの面で必ずしも住みやすいとは言えないのではないのでしょうか。郊外にSCが進出し、住宅地が売り出されれば、家を持ちたい人は当然そちらに住むでしょう。その結果、中心市街地への客は減っていく負のスパイラルに陥ります。このような郊外への拡大は緑地や農地の減少に繋がりますから、その面でも良くないことです。

商店街の会長さんが環境面から転換時期が来ると言われていましたが、それを待っていたら、市街地も郊外も高齢者だけになって、商店街の再生どころの話ではなくなるのではないのでしょうか。

ヒートアイランドが起きるような都市集中は御免ですが、高齢者や子供にやさしい緑豊かな住環境を確保し、若者が集うまちづくりが求められていると思います。中心市街地はまさにその核となる場所ですか活性化は必要だと考えます。

中心市街地の活性化については行政はこれまでどおりインフラ整備を中心に様々な支援、人材の育成を行うべきです。また、自治会、市民も直接的、間接的にその恩恵を受けているのですから、どんな形でも良いから支援すべきであると考えます。

そしてどこよりも商店街とそこにオフィスを置く会社が、行政に頼らず主体となって、具体的な行動をとるべきだと考えます。デパートが来てもそのチャンスを活かさないでは困ります。チェーン店や支店に押されるのではなく、浜松生まれの地元の商店、会社が活気を創るくらいの勢いがほしいと思います。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

私たちのように中心市街地に近い住民にとって中心部が活性化し楽しい場所になれば良い事だと思いますが浜松市は非常に範囲が広いので各地区のコンセンサスが必要だと思います。

私自身が思うのは地元(本当の市街地住民)とのコンセンサスが必要では無いかと感じております。

そこに住んでいる人、土地を所有している人又そこを仕事の間としている人達がどのような町にしたいのかを良く話し合っ街造りを進めて行くことが必要ではないかと感じますあまりにも行政中心で事を運んでも良い結果は出ないのではないかと思います。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

「第4回まちなか商業者の生の声」を聞き、

- ・ 中心市街地の活性化が必要なのか、誰のために必要で、誰のために取り組むべきか、多額の税金を投入する必要があるのか

よくわからなくなってしまいました。今まで、行政と店主ぐらいいは、ともに活性化に取り組んできたと思っていましたが、どうもそうではないようで残念です。・・・

とはいうものの、住んでみたい、住み続けたい「街」には魅力のある中心市街地があってほしいものです。**その「街」に住む人暮す人のために必要と思います。**

そして、中心市街地のことを考えるためには、浜松市全体がどのような「街」なのか、どのような「街」にしていきたいのか考えなければならないと思います。

商業地、住宅地、工業地の配置、公益施設の配置、それぞれを結ぶ道路、公共交通機関の整備、いまままで経済活動が先行し、無秩序に作り上げてしまった都市を再構築する必要があるように思います。それも、画一的な整然とした整備ではなく、人々の生活を考えながら行わなければならないと思います。

私にとって、身近な「まち」とは、歩いていける範囲に日常生活に必要な商店がある、八百屋、パン屋、薬屋、雑貨や、出前を頼める店などがあり、休日、深夜や早朝でも開けてくれる店がある。

この身近な「まち」に、人が集まる施設が加わり、広がったのが中心市街地ではないのでしょうか。

取り組むべき問題

- ・ まず住む人が増えること。店主も住んでいないのでは、話にならないが、新聞で報道されているように地価の変動、高齢化、利便性・安全性などを求めて、都心回帰は始まってきている。まず居住人口が増加することが必要、指定容積率をもっと上げることはできないだろうか。
- ・ 変化があること。郊外型の店舗は、画一的であり、箱物はそのうち飽きると思う。
ディズニーランドの人気は、絶えず変化していることから、衰えない。いつ行っても新しい発見がある。「まち」にひとを呼ぶには変化をつくりだす必要がある。
- ・ 休める、憩える、暇つぶしができる空間があること。郊外型の店舗のように閉鎖された空間の中で、半日いることは人間は苦痛ではないでしょうか、風を感じ、暑さ寒さを感じ、人は季節を感じたいと思います。
- ・ 気軽に、気ままにいけること。タダの駐車場に対抗するには、快適な公共交通を整備する必要がある。一日乗り放題、安全性の確保と何より利便性が大事であると思います。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

第4回 まちづくり人材育成講座

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

必要であるとおもいますが、勉強不足ではっきりと分かりません。

自分が現在生活する中では、殆ど必要なく郊外だけで十分間に合っています。

わざわざ駐車料金を払って、混雑する町中に行く必要もなく郊外の方が気持ちも楽で安して行けます。

大局的に考えるなら活性化は必要と思います。浜松市へのよそからの集客力を考えればお金も落ちることになるでしょう。浜松市と意欲を持った市民の皆さんが考えれば良い案も浮んでくると思います。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

まず、どんなまちを目指すのか

美しいまち

緑が多い 景観が整っている ゴミがない 整然としている 花がある 明るい

賑わいのあるまち

人が行き交う 商店に活気がある 交通が便利

人が集えるまち

交通が便利 憩いがある 催しがある 歴史がある 安心・安全 ゆとりがある

歴史を語るまち

歴史がある 夢がある 歴史の保存と活用 おもしろみがある

観光のまち

歴史がある おもしろみがある 名物・特産物がある 回遊ができる 交通アクセス

人が集うための交通方策を

既存の鉄道交通の利用促進の工夫をする。

鉄道は一度に多くの人を運ぶ事が出来すし環境のためにも経費のためにも利点です。鉄道を軸に駅からバスを小回りに走らせる。

駅を拠点とした「パーク&くるる」バスは小型で、小型なら運転手は今後退職した人や女性の起用も考えられます。鉄道の駅を拠点にし利用しやすくすればマイカーに限らず、自転車・車椅子・歩行者、今後高齢社会で歩行者は増えます。鉄道交通利用促進の工夫をまず考えるべきです。

JR天竜川駅 - バリヤフリーにしなくてはいけない一ヶ月の乗降客五千人をいつか越えております。(八千人弱)

浜松駅からたった4分。駅周辺を整備し、南口に「パーク&くるる」を実施すれば

区役所バスが載る人がいませんでした。現状を把握していない運行だったと思います。区役所バスはサービスセンターがバス停です。現状サービスセンターで間に合う事を区役所まで行く必要がありません。サービスセンターは比較的公共のバス路線近くにあります。

天竜川駅は南区と東区の境にあります。天竜川駅に「パーク&くるる」ができれば

- * 浜松へ駅へたった4分。中心市街地の活性化になります。
- * 中心市街地の交通緩和にもなります。(環境・ひいては地球温暖化抑制にも)
- * 東・南区役、アリーナ、東部保健福祉センター、浜松緑化木センター、東名浜松インター、浜松祭り凧あげ会場ピストンバス発着地駐車場などいろいろな施設を利用しやすくなります。
- * 浜松市にとって浜松駅からたった4分の天竜川駅周辺もっと土地有効利用を

天竜川駅のみならず高塚・舞阪駅周辺の整備は中心市街地の活性化・都市交通に大きなかわりがあります。

中心市街地は歩行者優先に考える

車道は少なくし、車の乗り入れ最小限にする。街中は歩いて散策・ショッピング・オープンカフェなどで楽しむ、歩く文化の促進を。ドイツのフランクフルト、品川駅も歩いてきました。品川駅、大都会にあんな緑の遊歩道そして休憩所(オープンカフェやベンチ・水辺)もあり、ごみはなくほっとする空間でした。歩行者・車椅子・自転車にやさしい街、環境にやさしい街を目指してください。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

中心部はいわば市への入り口である表玄関のようなものである。市の顔として中心部の活性化は必要であると考える。

商業者同士の協力で中心部の街づくりをしていただきたい。個々の力だけでは発展しない。横のつながりがなかなかむつかしいようであるが、お互いの発展のためには、やはり協力しあうことが必要ではないか、そのための行政のバックアップも必要となるかもしれない。

近年、中心部へマンションが増え、人口が増えつつあるようであるが閉ざされた自治組織でなく、住民意識を街の繁栄のために協力してもらえよう高める必要があるのではないか。

商業者と住民とが手を組んで中心部の生活の快適さを造り、ひいては、郊外の住民をも呼びこむような魅力的な中心地域の環境づくりが大切ではないか。

箱物だけの殺風景な中心市街地であってはならない。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

私は、中心市街地の活性化は必要であると考えます。その理由は、中心市街地は、まちの核であり、まちの顔になる場所だからである。

浜松市において、中心市街地は古くからまちの発展の中心にあったまちである。多くの人にとって浜松の顔といえば、中心市街地が思い浮かぶだろう。こうしたまちを衰退したからといって、見捨てていいとは思わない。浜松の顔として、核として活性化させていく必要がある。

しかし、中心市街地の活性化を行う際にいくつか留意しなければいけないこともある。一つ目としては、中心市街地の活性化の方法に対する発想を変える必要があると思う。人材育成においていくつかの中心市街地の活性化の施策を聞いてきたが、そのどれもがお金を掛けてインフラを整備しようとするものが多かったように感じた。しかし、中心市街地に必要なものは本当にそうしたインフラなのだろうか。確かに、歩道やベンチが綺麗なものであれば、まちは綺麗になる。しかし、「モノ」が新しいものになったからといって人はやってくるだろうか。「モノ」だけでは、やってきたとしても一時的なものになってしまう。今あるものをどのように使うのか、生かしていくのかという発想も必要なのではないだろうか。また、お金も行政だけが出すのではなく、必要なものは市民からの募金などでまかなってもいいのではないだろうか。

二つ目の問題は、一つ目の問題とも関わることだが、中心市街地の活性化を行政の政策としか見ないことも問題だと私は思う。今回の人材育成の講座を聞いて、商店街の人たちの意識が少し低いのではないかという印象を受けた。また、行政との足並みもそろっていないことも人材育成の講座を通じて痛感した。

中心市街地の活性化は行政の政策という問題だけでなく、中心地に住む人、利用する人全ての問題である。いくら行政が国の施策に乗っかって中心市街地の活性化を図ろうとしても意味がない。そこに住む人たち、利用する人たちと共に問題に取り組まなければ、効果は上がってこないだろう。

中心地の問題を一番感じているのは、中心地に住み、生活をしている人たちである。そうした人たちとの協働なくして活性化はない。一つ目の問題と関わることだが、いくら歩道を綺麗に広くしても、それが中心地に必要なことでなければ、お金を掛けても意味がない。

実際、鍛冶町通りの歩道を広げていたが、木やアーケードの柱が邪魔をして従来の広さしか歩道を使うことができない。アーケードは半分しか屋根がないため、雨の日にはさらに使える歩道が狭くなる。歩道をいくら広くしても実際に使う側からしたら問題は多い。

行政と市民とが共に「自らの問題」として中心市街地の活性化を考えていく必要がある。

三つ目の問題は、中心市街地の活性化に対する理解、合意を取る必要があるということである。旧浜松市の市民は、中心市街地への思いは比較的強いと思うが、新たに合併した地域にとって中心地の意味は薄れるだろう。そうした人たちに対して中心地市街地活性化の意義というものをきちんと説明できなければならぬだろう。(当然行政だけでなく、中心市街地活性化に関係する人全てが)郊外に住む人と中心地に住む人の双方が納得できるような中心地の活性化の方向性を探る必要があるだろう。

以上が、中心市街地の活性化を進めるうえで考えなければならない問題であると思う。現在の中心地は、浜松駅ができてから、ずっと浜松のまちを支え続けてきた場所である。まちには、核となる場所、顔となる場所が必ず必要だと私は思う。100年後、200年後にも浜松が豊かなまちであり続けるためには、中心地の活性化は必要であると考えます。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

(はじめに)

市の都市経営の考え方は、
住民自治の強化を図る。
地域課題は、住民自らが考え解決する。
第三者機関等による諸政策の審議・評価等の実施。
と公示されており、市の拠点形成についても述べられています。



協働型の都市経営の推進

(設問への総括)

今回お話を伺った鍛冶町地区は、浜松市の顔であり、拠点性の最も高いJR浜松駅を中心とする市街地に属しており、活性化は必要だと考えます。
但し「活性化する……」とは、心地よい響きと、夢を幻想させる語彙であり、スローガンのように思えてなりません。

(論点)

「具体的にはどうしたいか……」長・中・短期的に見えて来ないのは、私だけでは無いと思えてなりません。

そこで、今回の「まちなか事業者の生の声」を聴き、現状の一部を客観的資料及び長年の経験等から、「活性化」に対する行政・地元との乖離が有るなと感じました。

昔から『あきないは三惚(仕事・家・土地)が礎である。』とされていますが時の流れ・家族制度の崩れ・価値観の多様化等から、皆セールスマン時代となっているのが該当地の現実の様に思えてなりません。

浜松市中心街での「箱もの出店の活性化志向では、破綻を来している。」と見做されても仕方が無いと思います。(イトーヨーカドー・西武百貨店・松菱百貨店等の破綻)

又 アクトシティの業容と周辺の賑わい具合は、検証中と感じております。

この試行から伺えることは、「生活環境を軽視し、住民を抱え込む施策の欠如」が出稼ぎ商売の帰結だろうと推測します。

最近建立の高層ビルで、「高層階を住民とする」やり方は、駅周辺のロケーションの良さを取り込み、地元消費者増をはかる手法であり、効果的な策といえます。

いずれにしても、「まちづくりは地権者及び住民の意図と熱意と実行」に掛かっていると考えます。

この為に、該当区の生活者増の諸施策が必要であり、活性化の要件の1つと考えます。

これと相俟って、ロケーションの良さと環境の充実度を再確認し、啓蒙する事と阻害要因排除等に対し、行政・近隣等と連携し効果的な処理が必要と考えます。

更に活性化を押し上げる為の集客諸施策への積極参画が必要と考えます。

以上設問に対する表面的な考え方を述べさせて頂きました。

(高橋理事長の声から)

- ア. 後継者難及び店主の高齢化。
- イ. 定住世帯が少ない。
- ウ. 業容の変化(物販が減った)。
- エ. 大型店舗が3店撤退。
- オ. 夜の町となっている。
- カ. 看板・店先の使い方等问题有。
- キ. 若い人が段々少なくなっている。
- ク. 諸資材が高騰している。
- 1. 生活機能に勝る鍛冶町に居を移したい。
(年を取ると便利さが優先)
- 2. エネルギーの高騰・枯渇は、生活様式に変化を
来す…乗用車第一主義の変化。
- 3. 商業は、流通を司る。
- 4. 環境改善と相俟って、新交通システム導入も幻の
段階を脱した。
- 5. 集客の施策を種々打ってきた。

世の中の動きは、今は勝負時でない。
力を溜めて様子を伺っている。

と感じました。

(まちあるきから) 15時から約30分鍛冶町の西北の一部を歩いた。

- ア. シャッターの締まったお店があった。
 - 1. 店仕舞い…1軒
 - 2. 夕方からの開店…1軒
- イ. 店を閉じ、跡地が貸駐車場に(2台)となっていた。
- ウ. 歩道に看板・提灯・テーブル等が出ていた。……………歩行を妨げていない様だ。
- エ. 歩道・車道隅に自転車の放置が多い。……………通学自転車が多く気になる。
- オ. 歩道でピラ配りの人がいた。
- カ. エネルギーメンテナンスボックスが歩道脇にあり、防災・防犯上気になる。

尚 表道路は整備されており、有楽街通り等は暴走抑制処置等がなされていた。
25年以上のお店が見当たり、商人の町の強さを感じた。

中心市街地の活性化は本当に必要であると考えますか？

はじめに

私が50年近く浜松市を離れて、帰って来たのは平成15年の5月でした。

その間の空白といいますが、浜松の変わり行く姿と現状を確かめることもなく、帰ってまず目に飛び込んで来た風景は、浜松駅周辺の変貌、松菱デパートの閉店、と同時に周辺の商店街も人気(ひとけ)も少なく、シャッターの下りている店を見るのは、とても言い様のない寂しさと、ショックでした。

かつての中心街は、こじんまりとした商店が並び、活気に満ちた鍛冶町通り、肴町通有楽街、千歳通り等、人と人とのふれ合い、店主との世間話、情報の交換など、なごやかな光景は、今あまり見られません。ただ人があまり目的もなく集まり右往左往しているのが現状です。みんなに心のゆとりがなくなったのでしょうか。

こんな浜松になってしまった要因は、市行政の都市計画の甘さ、店主の商売への取組、大型店舗の郊外出店(現在でも、浜北に西友、アピタ建設中)理由を見つけようとすれば、まだまだ沢山あります。

ただ、今更と思うのですが、浜松市が広すぎてまとまらないし、市の中心街に人を集めるのは無理です。また浜松には、区は地形、その他の現状からいって似合いませんし、区の機能も果たしていません？

どうしたら、中心地に人を集め、活性化にむすびつけられるか。

- 1、交通問題(政策) 問題の1つは、道路は巾がひろすぎ(商店街を左右ブララ)
バスの運行回路。車と駐車場。歩行者道路の確保。
- 1、市の中心街に、いろいろな施設を集める(住居、図書館、美術館、科学館、博物館、産業館・・・地場産業の展示と販売、医療施設、その他)
人の流れが、自然と出来るような環境づくり。
- 1、大型店舗をこれ以上増やさない。(規制されているはず)
- 1、3年後に出店が予定されている、「大丸」と近隣の商店との競合、お互いにうまくいくような努力をして、魅力ある存在になってほしい。

まだまだ、いろいろな難題をかかえ大変だと思います。大企業(ホンダ、ヤマハ、スズキ)が、浜松から離れていく現状は、空洞化に拍車をかけ、また高齢化も進み、市民はとまどいと不安を感じるでしょう。生活にゆとりを持ってないかぎり、中心商店街の活性化は望めません。また、物価も安くない。産業界、行政、市民が一体となって、真剣に取り組んでいきたいと思います。